



<学校教育目標>

さわやかに、かしこく、たくましく未来を拓く見初っ子の育成

子どもも大人も共に学び合う見初に

校長 川本 朋子

先日、小中学校適正規模・適正配置計画の説明会に参加しました。見初地域の周辺で言えば、見初小、神原小、琴芝小の3小学校と神原中が1つになり、将来的に小中一貫校の開校を進めるという計画の話です。詳しくは市のHPの資料を見ていただけたらと思いますので、内容についてここでは触れませんが、説明を聞く中で様々な思いを抱いたところです。

その思いの中の一つを正直に申し上げると、「見初らしさが失われませんように」という思いです。それは、見初に限らず神原や琴芝においても同様で、この度示された計画が望ましい方向に進むためには、これまでコミュニティ・スクールとしてそれぞれの地域や学校で培われてきたものが、融合し生かされることが理想ではないかと考えています。

では、見初らしさとは…。それは、地域と家庭、学校とが共に学ぼうとする風土をつくりあげてきたところにあると思っています。学ぶと言えば少し堅苦しいかもしれませんが。例えば、楽しくふれあう場面、何かを一緒に創り上げていく場面など様々です。子どものそばには地域の大人がいて、大人のそばには見初の子どもたちがいる…。そんな微笑ましい関係性が、見初らしさだと思うのです。

本校では、子どもも大人も学び合う機会や環境がいくつもあります。わくわく楽習での囲碁や将棋にグランドゴルフ、放課後学習室や読み聞かせなど、毎週、地域の方と触れ合う機会があります。年間では、地域合同運動会や見初まつりへのご招待等の行事もあります。

近年では、本校が進めている彫刻教育で地域の方と共に学ぶ機会を得ています。これが進む原動力は、地域の方の「見初の子どもたちに彫刻を！」という熱い思いです。令和4年に彫刻「プラントロニカ宇部」が学校地内へ建てられ、令和5年には子どもたちが大好きな昭和町街区公園に彫刻「雲の上にあるもの」が建てられました。これが実現したのは、地域の働きかけがあつてのことです。それ以降、地域の方と一緒に彫刻カルタを楽しんだり、地域の方も一緒に「プラントロニカ宇部」の作者である岡田健太郎さんとの交流を楽しんだりするようになりました。

そしてこの度、見初社会教育推進委員会でも彫刻教育を取り上げていただき、2月8日（土）には見初ふれあいセンターで、宇部市文化振興課の佐藤学芸員さんをお呼びして、彫刻カルタの体験が行われることになりました。（詳しくは、地域紙「見初だより」をご覧ください。）学校での学びが地域へと広がっていったように感じられ、大変嬉しく思っているところです。

こうして、協働活動として地域と共に学ぶ機会が増えてきたことで、今後更に子どもたちに地域に対する愛着の心が育っていくことを期待しています。そして、冒頭にあるように、時代が変わり学校の様態が変化することがあっても、それぞれの地域がその良さを失わず、地域と一体となって伸びていく学校であってほしいと願ってやみません。



地域の方々と
彫刻カルタを楽しむ子どもたち

校訓 進取 進取 進取

(昭和5年制定)

質実剛健**醇風美俗****神原中学校区 めざす子ども像**

- ・思いやりの心をもつ人 (共感)
- ・考えて行動する人 (自立)
- ・地域に貢献する人 (郷土愛)

◎ 見初っ子宣言 ◎

みんなで思い合い、
めざせ笑顔100%
いじめ0%